礫陵新聞

発行所
若松高校新聞部
福岡県若松市小石
発行人　入江健太郎
編集人　大屋啓吾
印刷所　西日本新聞社

便利で安全な
定期予金
若松信用金庫
中川通り三丁目
TEL二八一六

論説

卒業をひかえて

物事に実際に直面せねばその物の真は判らないということはあり得る。だがそれをのみ信じて、当つて砕ける式で行けば、必ずやそこには無理が生じたことに気付き、今さらながらの無鉄砲さを後悔せねばならぬことが起るものである。中学─高校という温床に過してきたわれわれに、幾らかの社会に対する予備知識はあつたにしても、危惧と憧憬と理想で作つた社会とは自から違つたものであることは否めない。

就職は峻嶮な絶淵に通ずる岐路であり、大学にしてもそこはもはや温床ではない。社会の波がひたひたと寄せ足をぬらすところだ。毎年こういうことが繰り返される言葉であつても、来年も、またその次の年においてもやはり続けねばならぬと思われるのは何故だろうか。今新たに心構えを正しく定めようというと多少耳こそばゆい人もいるだろうが　果して今までの生活が今後の人生にプラスの成果を上げ得るか、もう一度反省する必要はないだろうか。『現代の学生は戦前の学生に比べその精神、若々しい情熱、気迫などにおいて質が一段劣つている』とは、戦後の学生を非難する言葉としてよく耳にすることである。決してわれわれの知つている限りの戦前の学生のとつた行動は賞めたことではないはず。薄汚ない手拭を腰にぶら下げ、高下駄を鳴らし、ヒゲも生やし放題のまま大道を横行濶歩料亭など酒を呑み盛んにわめき散していた者さえあつたそうだが今のわれわれと比べて大変な相違である。それに比べればどれだけ現今の方が理想的であるかも知れぬ。だが外見は別として、彼等の抱いていた精神はどうであつたかということである。すべてということはできないにしても、彼等は健全であり理想に満ち溌剌たる気慨に満ちていたことであろう。少なくともそこには青年の象徴たる若さと情熱と高い理想が流れていたに違いない。われわれの必要とするところはここであつて、次の世代を背負わねばならぬわれわれの大いに反省を要するところである。

教育制度が変り、大きな時代の働きかけに変化された現在においてこの比較は一概に決論を下せないとはいつても、実際今のわれわれには合理的に理論的に物事をつきつめて追求してゆく力に欠けているのではあるまいか。人生問題にしろ疑問に対し深く洞察し友人とお互に議論を戦わすなどということは無視されつつあるのではないだろうか。高校では近ずきつつある大学入試、または入社試験に大慌てにあわてているというのが現状、われわれは中学と高校との間に相当なギャップを感じ更に今、高校と大学の間にそれ以上の大きな開きのあることを痛感せざるを得ない。殊に地方のわれわれにとつてはこの風当りが強いのである。この現状を素早く反応したものが現在の高校はある意味において、また特に都市におけるそれ等は予備校的性格を多分に持つものである。

われわれは現在の教育制度に十分の満足を感じる者ではない。しかし、だからといつて不平ばかり並べるわけにもゆくまい。不平の解決がない以上自らを適応させ、現実に即して努力が必要となつてくる。各々目的を達するために励む者にとつて高校生活は決して楽しいものではなく、むしろ緊張と焦燥の生活ともいえるのである。受験勉強に没頭している者は入試のみが人生の全てのように思い勝ちになり、そういうものがしばしば見受けられるが、受験は人生における目的達成への一段階にすぎない。その一段階を全てだと考えるような思い違いは早く棄て去り、自由濶達な精神力をわれわれは養わねばならぬ。われわれは前途に夢を忘れてはならぬ。廃頽と陰滅の中には幸福はあり得ない。非常な忍耐と堅固な意志を養うものは、われわれが誇るべき若さと意気に外ならぬ。

もちろん世界の現状を認識することは必要である。自分も動かずにはおられない動きの世界である。ちゆうちよして一たん引き返す暇などはないかも知れぬ。だからこそ正確な判断力と沈着な行動はなおさら要求されるのである。今こそこの機会において目を大きく開けたならば　左右を区別する時ではあるまいか。（I）

〝歴史〟

君は知つているか。
なぜ『思い出』は美しいかを。
それはかけがえのないものだ。
それは一回だけのものだ。
それは訂正出来ないものだ。
ああ劫初から絶ゆるなき、
脈絡不断の時の持続。
その茫莫無限の流転の中に、
君よ、君の明確な軌跡を描け。
それこそは君らの『歴史』。
それが勝利の歴史であろうと、
敗北の歴史であろうと、
ともかく君らの人間と生れたあかしを、
宇宙の一隅に刻み込め。

卒業にあたつて寄す

温故知新

校長　森本鉄之助

過日旧友某の宅を訪づれた際にその書齋に『温故知新』と書かれた扁額が掲げられておるのを見て私はいたく感動し反省させられた　いうまでもなくこの語は論語に『子曰、温故而知新、可以為師矣』とある文句から引出された辞句で『ふるきをたづね、あたらしきをしる』と読む。すなわち前に習得した所を復習し、新しい道理を発明するとの語義であると思う　今や三年生諸君に賤の詞としてこの四文字を呈したい。

さて諸君のうち進学者を除いて大部分の者は本校の卒業を以て一応正規の学業を廃することになるがこれを以て学問が全部完成したわけではない。そこで私は毎年卒業生に対して生涯勉学を続けて未完成を成就させて欲しいと希望している。しかしさて一旦社会に出るとなかなか思うように勉強も出来ないしまたしようとする意欲さえ失つてしまう者が多数ある。思うに職場に働く人は因より仮令家事に従事する女子と雖もその仕事の能率をあげ完遂を期する為にやはり根本は自身の知能に待たなければならない。有為な人材として社会に貢献するには己の知を磨き技を錬ることの必要はいうまでもない。殊にこの生存競争の烈しい日進月歩の世の中においてはなお更のことで一日学ばなければ一日遅れ遂には落伍者として悲惨な境遇に陥る事は多くの実例が示す所である凡そ学問は単に学生の本分であるばかりでなく人間の一生を通じて為さねばならない事である。さきの友人は学生時代から真摯な勉強家であつたが現在激務に勤め、しかも齢還暦に達しようとするにも拘らず若い者も及ばない程の元気で職業の傍ら孜々と学問にいそしんで自らあの扁額の文字をそのまま実践している感心な人である。私がここに陳腐ながら『温故知新』の語を敢て呈する所次のものは諸君がこの文字を深く心の奥底に蔵して彼の如く最後まで不断に勉学してもらい度いためである。而して今後諸君の学問の最も容易な途は読書することである。私は極力読書を奨励する　多くの人は書を読む暇がなくて読まないのではなく読書の意欲と努力が足らない為である。やれば誰でも必らずできる。諸君はつとめて時間の余裕を作り寸陰を惜んで学問に励まれるよう心から切望する。かくてこそ諸君自身の充実向上もあり、社会の発展をも図り得るものと確信する。

生徒会の発展を期待

辻　一一

現在の私にとつて〝光陰矢の如し〟という言葉ほど切々と迫まつてくるものはありません。若高に入学したのは、つい昨日のことのように思つていたのに〝卒業にあたつての私の所信〟を書くなどは何んだか夢のようです。

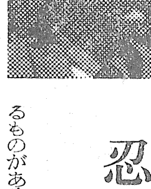
過去三年間をふりかえつて見ますと、怒られたことも、大掃除も若戸大会も、運動会も、嫌だつた中間および期末考査でさえも、すべてが楽しかつたことのように、懐かしく思い出されます。しかし入学試験を間近にひかえた身にとつて在学中よく勉強しなかつたことと、私としては最善をつくしたつもりですが、生徒会をよく発展させ得なかつたこととは非常に残念に思つています。

あと一月を待たずして思い出多い学舎を巣立ち行くことを思うと一抹の淋びしさと、未知の社会に対する希望と不安とを感じます。

すべて人は向上発展しなければならないと思います。そのためには漠然と生活していてもそれは不可能であり、向上発展するためにはぜひ目標が必要であります。この理想に向つて進みたいと思います。（前生徒会委員長）

忍耐で大成を期せ

総務部長　瓜生二成



小学校から中学校中学校から更に高等学校へと続いた学業生活、思えば長い十二ケ年。しかし、人生から見れば序の口であり、社会生活からいえば荒い風波から隔離された静かな温床の中のそれであつたとも考えられる。

諸君のめざす目標や進路には、それぞれ異なるものがあろうけれども、いずれにしてもこれからの生活は動いている実社会に直接触れて営まれるものであり、その意味からすれば諸君は今や真の人生への関頭に立つているともいえよう。卒業に際して遥かなる前途を思う諸君の胸中、感慨また新たなるものがあろう。

× × ×

春秋に富む諸君が万朵の花を見て、それにあやかりたいと思うのは当然である。しかし、ただ花を咲かせて実をつけることのみを急いではならない。より美しい花、より見事な実をつけるため、大成を期するためには、ここ当分の間は鳴かず飛ばず、じつくりと刻苦勉励せねばならない。地表の花の美が地下の根の深さ、逞しさに正比例するという大自然の理は人生においてもまた厳しくもあてはまる鉄則である。

× × ×

自立出来ない国家がいかに惨めなものであるかを身を以つて体験しているわれわれである。自立できない個人の不幸もまた推して考えられるであろう。特に女子の諸君にのぞみたいことは、ここ数年の間に、でき得れば結婚して家庭の人となるまでに、将来の自立、自活の準備を完了しておいてほしいということである。何か一つの技術を身につけておくことが、たとえ直接それを生活の具としなくとも、どれほどその人の人生を豊にするかはかり知れないものがあるから。ここ数年の間にと限定したのは、その準備は年をとればとるほど次第に困難を増すからである。（一九五四・一・二八）

進適廃止に感じて

原田敏武

今秋から進学適性検査が廃止されるということは、なんといつてもわれわれにとつては嬉しいニュースである。

これが高校進学者に取つてどれだけ大きな負担であつたかは、実際にこれを経験したものでなければ分るまい。しかも、その負担が何らかの意味で当人の将来にプラスになるならその意義もあると思うけれども、単に大学に入学するためだけのものであつた点を思うと今回の措置は誠に適切であり、むしろその時期がおそ過ぎた感さえする。ところが、文部省の行う進適は廃止になつたけれども、大学独自の立場で行うことは差支えないことになつているので、各大学共従来のような進適を依然として続けるようなことがあると、今回の措置が何もならなくなるので各大学共進適を全面的に廃止してもらいたいものである。

進適廃止になつて、私の心を暗くすることが一つある。それは過去において、学力試験では十分合格する実力を持ちながら、進適の成績が悪かつたために自己の志望する大学に入学できなかつた者が幾人かいたことである。これらの者の中には、こんどの措置を聞いてもう二、三年、あるいは四、五年遅かつたらと心暗い思いをしている者があるのではないかと思うとほんとに気の毒に堪えない。

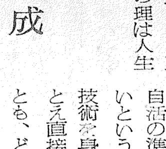
進適の負担から解放された二年一年の諸君は、それだけの力を学力をつける方に注ぎ、所期の目的貫徹のために努力精進をしてもらいたいものである。（本校教官）

第四回読書奨励賞

西日本新聞社主催

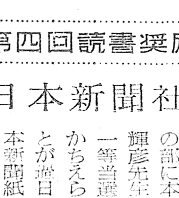
恩師の肉声を聞く氣で

山田先生に文部大臣賞など



第四回西日本新聞社主催『読書奨励賞』教員の部に本校山田輝彦先生が見事一等当選の栄をかちえられたことが過日の西日本新聞紙上に発表され、来る二月六日西日本新聞社において文部大臣賞、県知事賞　福岡県教育委員会賞などの授賞を受けられることになつた。本校は昨年現二年生保坂利三君が佳作に入選してから二度目で　今回は図書部長の山田先生が入選されたことは、自ら生徒に範を示されたものとして、大いに意義がありこれについて、先生に次のような感想文を書いていただくことができたので、掲載して、若高否福岡県下高校生へのよき読書法の一端としていただきたい。（写真は山田先生）

山田先生のお話　昨秋西日本新聞社が計画した読書奨励賞に応募したところ、偶然入選の栄に浴しました。一般図書の書評ということでしたが、私の読書傾向がかなり偏つたものだつたので、ジャーナリズムに乗らない固い本を選ぶ結果になりました。とり上げた書物は、私の学生時代の恩師である高木市之助先生の『古文芸の論』という本です。これは古典の研究が主体となつていますが、その研究方法が実に魅力的です。というのは従来の国文学者はもつぱら実証的方法を用いて、文献学的な研究に専念していました。国文学も学問である以上、実証[illegible]なことですが、それに[illegible]ると、文学の生き生き[illegible]を見失う結果となりま[illegible]究者にとつて実に大切[illegible]人的直観ということで[illegible]ち秀れた文学研究者は[illegible]人を兼ね備えねばなり[illegible]して日本の国文学者に[illegible]はきわめてまれなので[illegible]生にひきつけられたの[illegible]ロゴスとパストを総合[illegible]よつてです。私は先生[illegible]あたかも先生の肉声を[illegible]思いで感激をもつて読[illegible]そこには民謡や叙事詩[illegible]らぬ健康な人間像が美[illegible]き彫りにされています[illegible]に似たものを感じ、そ[illegible]しい感動を率直に書い[illegible]た。もし選者の心を打[illegible]あるとすれば、それは[illegible]対する純粋な愛情であ[illegible]私の力などではさらさ[illegible]信しています。



藤井学長講演会

[illegible]

学用品・雑貨
若高の皆さま　どうぞ……
釜崎文具店
若高下

巣立つ大学・就職へ

第四期卒業への動き

就職者の巻

今年の卒業予定生も例年通り、さきに出光興産に合格内定した商二の光安君を就職第一号として、以下三井富士などの金融機関、旭ガラス牧山工場などの周辺生産工場および、井筒屋、丸柏などの百貨店、商店などに続々と就職が内定し、一月下旬現在までに三十数名の合格者を決定して、まず例年と同じテンポで就職戦線を開拓しつつあるが、就職指導委員会の安田先生はじめ先生方にはこのところ東奔西走の大童『三月一ぱいまでには希望者の六－七〇%は確実ですよ』と確信のほどをほのめかしておられる　そこで新聞部ではすでに就職が内定しても、精神的にも知的にもその時の準備をかためている富士銀行松永敏子、三井銀行武石典子、杉野圭子三嬢により願つて、就職よもやま話をしていただいた。

杉野圭子

司会　おめでとう。ところで早速就職後の心がまえといつたところから。

杉野　この間、採用の通知をうけて銀行に行つたとき、支店長さんも学校のときの責任と、銀行の責任はちがうからしつかりやつて下さいといわれました。なにかしら心にはりができたようで、しつかりやるつもりです。

武石　もう心の準備というものはできているつもりです。しつかりやりますが、それでも健康が一番大切だと思いますので、今から身体に十分気をつけて養生したいと思います。

松永敏子

松永　入つてすぐさせられることはお茶くみと伝票くばりだと聞いていますが、それでもたいへん精神的に疲れるそうです。でも社会に出た以上は耐えて行かねばと覚悟しています。

司会　そのような、いわば散文的な生活をはじめると、学生時代をどこもなつかしがるのが例ですが。

一同（こもごもに）それはもういつも学校のことを思い出すでしようね。

司会　ところがだんだん仕事になれてくると、いわゆる『社会人ずれ』というものが身について学生時代にもつていた、考えるとか、感じるとかいつた若さを失うのではないか、そんなときどうします。

武石典子

武石　父がいつていましたが、仕事になれるとだんだん『横着』になつて感性がなくなるそうですが、そんなときは学校を忘れないようにして心の新しさを見つけだして行きたいと思います。

松永　そういうことが社会一般のつねとして、あることだから仕方のないことだと思いますが、若さだけは失わないようにしたいと思います。

杉野　それにはいつも学校を忘れないことですね。学校はいつも私たちをはぐくんでくれる心のふるさとだと思います。

司会　ではお元気で、しつかりやつて下さい。御健康をお祈りします。

就職決定者（順序不同）

旭ガラス戸畑工場　小川　雅子
日本板ガラス若松工場　徳王　照子
〃　福増　玲子
安川電機黒崎工場　広瀬　康子

部告

本紙は来号で第三十号を迎えることになりました。この第三十号を記念として広く皆様より投稿して載くため新たに礫陵文芸欄を設けることに致しました。奮つて御応募下さい。

◎随筆、評論、小説、コント、詩、俳句、和歌

〇なお紙上掲載の場合には薄謝を贈呈致します。

礫陵新聞部発行人

大学志望の巻

増えた地元志望組

同志社早くも決定す

今年の大学進学希望者は百七十名その志望校は六十校におよんでいる　先日の最終志望調査にその傾向を探つてみる。

最も多いのは九大、何といつても地元の強みにその名望は憧れの的二十九名を数えている。次には福岡学芸大の二十二名、これは少ない女子の志望者の半数以上を占める。ついで早大の二十名は学生間に人気はあるものの、この数字は意外に大きい。つづいて九州工大十八名、福商大十三名、長崎大の十一名、山口大十名と地元群が断然多勢を占める　慶応大の八名、明治大の五名、立教大の六名と早大にあとをうける中央の私立大がひき続いている。

その他は久留米大、北九州大の四名、西南大、広島大、大分大、松山大、法政大、福岡女子大、お水女子大がそれぞれ三名ずつ、小倉西南大が六名、同志社は七名、いわゆる一流校といわれる東大は二名、一ツ橋大一名、京都大二名それに大阪大が三名というところ　熊本大、山口女子大、横浜国立大それに日本大がそれぞれ二名ずつだが、そのほかあとはバラバラと一名ずつ。先ず東京では東京都立大、東京外語大、中央大、青山学院、日本女子大、昭和女子大など　大阪に大阪外大、大阪市立大、経済大、大阪薬大、神戸も多く商大外語大、商船大、女子薬大といつたところである。変つたところでは立正大、東電機大、下関水産大の各一名、また保安大志望も一名ある。

女子では佐伯、食糧の栄養学校看護学校も一名ずつ。遠いところでは東北大といつたものもある。

今年のこの表による傾向は中央上京組が昨年より減少をみせておりそれに反して大阪、神戸方面は増加している。地元と神戸以東の中央方面を比較してみると約四対三の比率で地元組の方が多くはなつているけれども、この調査が延べ人数であるところからはつきりした形はあらわれないし試験のでき次第ということだろう。

なお、先日すでに発表通知のあつた同志社の合格者は本校では三年一組の高村君、五組の土井口君卒業生の広渡君の計三名であつた

景勝地廻り ③

芥屋の大門

博多駅

で唐津行の筑肥線に乗換えると汽車は市街の外郭を過ぎて広々とした平地に出る。所謂早良平野で春になると油菜の黄一色で塗りつぶされ左に油山脊振山が望まれ右は『生の松原』の樹間から紺青色の海に浮ぶ『残島』が見えてその南国的おおどかさは都塵に汚れた私達の眼を楽しませてくれる。長垂附近は山がせまつてその岩石は白晶花崗岩でその中に稀元素を含んでいるとかで天然記念物の標示板が車中からも望まれる。今宿周船寺を過ぎて前原町で下車する。博多から約五十分。今宿あたりから見えていた筑紫富士といわれる可也山が眼前に秀麗な姿を見せる。此附近一帯は後漢史倭人伝の『伊都国』に相当する所であろうと想像されて古くから中国文化の入つた所である。

駅前で

大門行のバスに乗換えると可也山の麓を過ぎて段々防風、防潮の松林を過ぎて約三十分で『大門崎』に達する。二、三十戸の古い砂丘の上に松の防風林で囲れた小部落であるが流石に料理屋兼業の旅館も二、三軒ある。

この部落の突端が『芥屋の大門』である。

部落前面の松原の砂礫の間にはハマオモトの大群落があつて七八月ごろの開花期には目をうばうばかりの純白色の花を開きはなはだ美麗である。このハマオモトは暖国性のもので福岡県第一の大群落であるがこの糸島半島は余程冬も温暖の所とみえてハマゴオの大木があつたり龍舌蘭が開花したりする。

この松原の中央を堀つて舟溜りが造つてあり大門見物の船はここから乗るのである。小舟に乗つて海外に出て舷から海底を見ると岩の間に海藻がゆらゆらと動いている間を魚が見える程海水は清澄である。

岬の先

端に突兀たるピラミッド型の玄武岩の高さ八〇米程の岩山で六角柱状の節理をなして丁度木材を縦に幾層も積重ねたように見えて自然の働きの精緻さに唖然くばかりである。岩の下に舟を寄せて仰ぎ見ると妥協を許さぬ自然の峻厳さに打たれる想がする。水圏と陸圏の壮厳なる日夜をわかたぬ闘争に人間の営みの如何にはかないものであるかを感じさせら[illegible]

外海に

[illegible]落ちて来て波がこだま[illegible]つて来る。芥屋大門の柱状節理はこの糸島[illegible]近の『七ツ釜』にも見[illegible]できた火山岩であ[illegible]出し火山岩が風化する[illegible]ある節理によつて出来[illegible]えられる旅は私達を[illegible]望を持たせ、鉄えて[illegible]つめさせる。

若松を早朝に出れば[illegible]来るから諸君嬢の[illegible]する。（写真は洞窟の[illegible]は赤司教官）

行事予定

二月
▽九日　三年期末考査（四日間）
　一、二年中間[illegible]
▽十二日　予餞会（[illegible]
▽二十一日　高校志願[illegible]
　学力検査
▽二十二日　一年実力[illegible]
▽二十七日　代休
▽二十八日　出校
三月
▽一日　卒業式
▽三日　第一期大学入[illegible]
▽五日　一、二年期末[illegible]
▽十四日　生徒自宅学[illegible]
▽二十日　本校入学生[illegible]
▽二十一日　第二期大[illegible]
▽二十三日　修学旅行[illegible]

新刊書・学習参考書多数山積！
石松
西海堂書店
本町四丁目電二四一五番
江藤
文ちやん書店
本町五丁目電三九一七番

二月一日より深夜・早朝営業を開始致しました
（午前2時――午前9時の終日営業）
東洋タクシー
電2469番　2348番　遠賀税務署前
何卒！不便な深夜早朝のタクシーの御利用は皆様の東洋タクシー

近日営業開始!!
皆様の御要望におこたえして只今新車手揃え中で御座居ます。
営業開始致しましたその節は
何卒！当社に御用命の程を！
中央タクシー

柏
春の百貨荷揚
ぜひ御来店下さい
若松　丸柏

若高三年間の思い出を語る

三年生を囲む座談会

良い伝統を遺したかつた

開校記念日に仮装行列は？

卒業式も間近く〃三年間の思い出を語る〃放談会を催し、現在の胸の中をぶちまけて頂いた。三年間はやはり三年間だ。その間をいかに過ごそうとも思い出は思い出として残つてゆく。これは主として指導的立場にあたられた人たちの三年間の反省でもある。

出席者（敬称略）
三年 厚田　武春
三好　正一
波多野　暹
石松　一隆
土井口　稔
富迫　健二
辻　一二（前委員長）
杉野　圭子
武石　典子
松永　敏子
二年 白橋　誠一（現委員長）
市川　玲子
一年 山本　博昭
教官 赤司　覚（生徒会生徒部長）
森元　哲郎
吉開　和男
司会 新聞部

司会　今日はわざわざお集まり願いまして只今より三年生を中心としての三年間の思い出を語る座談会を開きます。先づ入学校初に戻つて当時の思い出から、

厚田　入学当初若高の風習というものはないように感じた。上級生の中にもサボル人あり、真面目な人、いろいろだつた。

赤司　入学当時にやはり上級生や先生を恐れていたな。先生がえらく見えたんだろう。

原田　現在の生徒に先生を敬遠し過ぎるね、上級生と下級生の親密感も大変少ないんだ。

辻　現在のホームルームにおいてさえ意見が出ない。だからおよそ生徒と先生のつながりは知れたものだ。

三好　僕もあのころは上級生がとても届かない所にいるように思えた、

――一年の時のクラスはどんなものでしたか？

森元　あのころは英語や数学を基準として能力別にしていた。

赤司　能力別は良い所もあるし悪い所もあるよ。

辻　あのころは遊ぶことしか考えなかつたし、だけど皆さんが一年の時は掃除は真面目にしたものだよ（笑声）

――ではずつと飛んで修学旅行の思い出を

厚田　強く感じたことだが生徒のリーダーが必要ですね。

赤司　修学旅行という名前にとらわれすぎる。

三好　汽車の便がとても悪かつた

赤司　自今でも思い出すね。始めての食堂車をみた時だ。

厚田　なるだけみせてつめ込もうとする。実行出来ないものまで計画に組むのは行過ぎた。

赤司　女子は修学旅行では実によく食べる……（笑声）荷物はみな食べるものだ（笑声）

――運動会はどうでしたか。問題になるのは去年の仮装行列ですが。

白橋　強引にやつたところに意気があると思つたけれども

辻　生徒が誰もとめなかつたのだ

厚田　参加した生徒は夜作つていたので授業中は眠つている者もいたね（笑声）

指導的な総務を選べ

生徒会は発展が必要

赤司　あれは見事に一本やられたのじやないか

辻　現在も生徒は反省していない

赤司　これもホームルームの生徒先生間の親密感がない影響だよ

市川　女子の参加は進んでやつたのですか。

厚田　もちろん女子がいなければ仮装行列は成り立たなかつた。

赤司　時代の圧力に対する一種の反発だね。

白橋　二年も出来ればやりたい。

赤司　一学期など開校記念日などにそんなものをやつたらどうだ。

――応援団のことは？

原田　今年のはどうもうまかつた

波多野　女の応援団長は変つていたね、あんなのは反対の声もあるがやつてもいいと思う。

杉野　三年の団長は、二年がしたからそれではやつてみるということで作つたのです。

――では生徒会クラブの活動について学年末にどこでも予算を多く貰うか。

辻　部長は特に文化部の小さいところは予算の取り役みたいだ。

石松　生徒会の時間がないところに発展しない原因があるのじやないか。

辻　生徒会について関心を高めることが根本だ。

厚田　生徒一人一人が自分のものとしていない。

吉開　総務は総務会の結果だけしか報告しない。

赤司　昔の級長の様な気分でいるんだ、指導力のあるものが望ましい。

白橋　一学期に総務を唯学力テストの良い者がなるのはよくない

辻　総務の発言が少い、中学よりも少い位だ。

――時代の流れに対して若高生は反応が小さい様だが。

辻　政治に関心を持つべし、指導者が欲しいな。

吉開　先生に何の質問でも求めるがよい。先生は権力の持主ではないから政治上のことでも聞けばよいのだ。

――先生方の三年に対する意見の様なものは……

赤司　今の三年はあらゆる方面ですぐれている人が多かつたと思うが、それをわれわれが十分指導できなかつたことを反省している。

森元　良い伝統を残してもらいたかつた。

吉開　今の三年は一年の時はおとなしかつたよ。授業中もシーンとしていたもんだ。

――その他印象に残つたものなど……

波多野　文化祭がなかつたのは残念だつたね。

白橋　運動会をするのが遅すぎたしかも運動会に重点がかかりすぎたと思う。

吉開　開校記念日等は是非作るべきだ。そして思いきり騒ぐがいい。バザーもその時だけでよい。

――学習について何か。

赤司　各学科の本質をつかまなければならない。

辻　国語なんか古文ばかりだ、人生のことなどを考えるなどは時間がないし今の青年は夢がないと思う。

厚田　中学、高校の期間が短かいと思う。

赤司　中学と高校が合併すればよいじやないか、

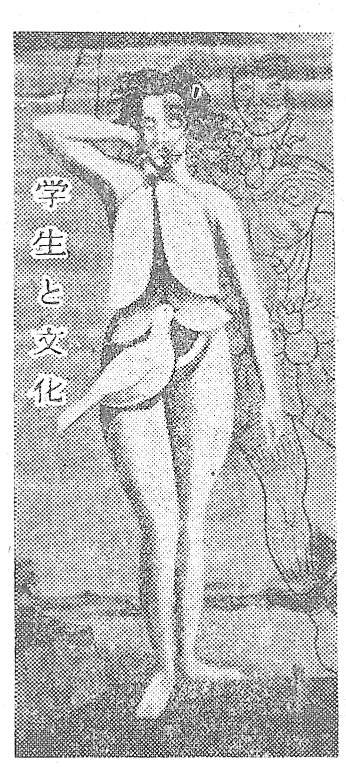
厚田　今の学生はずるい、物事を本質まで持つて行こうとしない

――では最後に後輩のために一言何か……

辻　何といつて勉強が一番大事だ後から後悔などしない様に。

――どうもいろいろありがとうございました。時間が参りましたのでこれで終らせて戴きます

学生と文化



〃善意な人々のために〃

鶴島　正男

ボクのクラスは如何なる星の下に誕生したのか。入学以来一年にも満たないのに既に三名もの生徒がまるでクシの歯のもろくも欠けてゆくように消えて行つた。そのたびにボクはさびしい思いをしたものだつた。

そうした生徒の中の一人、T君はクラスでもあまり目立たない生徒だつた。時々クラスの悪太郎連にからかわれるといかにも当惑したとでもいつたような顔はしても決して憤りはしなかつた。こんな話も父親から聞いたことがある。ある日、父親の代理で卸菓子の代金取立てに出かけたT君は一文も取立てずにしよんぼり家へ帰つて来たので、その理由を聞くと『あの店、とても困つているようだつたのでいい出せなかつた』と答えたという。T君とは、まあ、こんな今日のように天秤をかついで歩いている生徒の多いセチガライ世の中には、珍らしい好人物であつた。

そのT君から冬休みも後、数日で終るというある日の午後、思つた封書がとどけられた。年賀状は既にもらつてることだし今ごろ何だつてと妙な予感にかられながら封を切つてみるとそこらの何でも屋に売つてるような安つぽい便箋にこれもまた、幼い文字ながら異状な決意の程がうかがわれる文章が綴られていた。つまり自分でも熟慮の末学校をやめたいというのである。

ボクは思わず微苦笑した。というのは二学期末の父兄会にも父親からは、とんとそんな話は聞いていなかつたし（これは後で解つたのだが、好人物の父親は息子の受持教師の前に容易に切り出せなかつたらしい）その手紙を幾度読みかえしてみても親父がやめれといつたとは一言も書いてないのである。ボクは先年おふくろにその不勉強を叱責されて学校退学の悲そうな決意を胸に、黄昏の運動場に涙ぐんでいたういういしい生徒があつたことを思い出したからである。早速ボクは父親がこの手紙を受取つた時の苦笑した顔を想像しながらその真疑の程を問うた手紙を託けたが、いくら待つても返事が来ない。そのうち三学期も始まり、T君の欠席が続いた。こいつはどうも変だぞ。流石のボクも少々不安になつてある日の夕方、T君の家を訪ねた。裏町のうらさびれた駄菓子屋のような暗い家の中からT君がしよんぼりと出て来た『どうしたい』というと今にも泣き出しそうなこわばつた顔になつて一向に要領を得ない。そこで近所の簡易食堂につれ出してやつと聞き得た話をまとめてみるとこうなのだ。今まで菓子の御売りをやつていた父親がこの夏、ささやかなアイスキャンデー屋を始めた。T君も一生懸命に働いたらしい。が、好人物親子の努力にもかかわらず、この計画は完全に失敗した。T君は家計の貧困を傍観するにしのびず自分からやめたいといい出したのだという。『お父さんの気持としてはボクに直接やめれなんていえないだろうと思つて……』ボクは今更のようにT君の顔をしみじみと見直した。学校での影のうすいT君だけしか見ていないボクにはこれ程までに考えていようとは意外だつたからである。ボクはT君がいじらしくなつて、定時制へでも行つたらどうかとたずねると『ぼく……ぼくは勉強したいんです。でも……』

『よし解つた。それさえハツキリすれば、ボクがお父さんに会つて相談してみよう』ボクはT君が不びんでならなくなつたのだ。定時制なら学資もあまりいらないし、それに昼間は父親の手伝いもできる。ボクはやつと霧にさえぎられた道が一陣の風に眼前にひらけたような思いでT君と一緒に簡易食堂を出た。貧乏人の子沢山。私に出された茶碗までよちよち出て来た幼児がひつくり返すようなT君の家でやつと父親を説きふせて外へ出たのは数時間後のことだつた。貧しさに追われながらも自分の息子に学校をやめれとはいい切れなかつた父親と、その親の気持をくんで自分からやめようといいだした子と、自分の息子の退学を受持教師に切り出せなかつた父親と、あまり困つているようなので卸菓子の代金を取立て得なかつたという子と。こうした善意の人がどうして貧困の生活に蹴落されて行かなければならないのか。善意であるが故に何故かく苦しまねばならぬのか。すべてこの世はハツタリとペテンと天秤を巧みに使いこなさなくては生きて行けないものなのか。ボクは胸の底にやるせない憤りを感じながら、さつきまでの現実とはおよそ、うらはらなネオンの街を歩き続けた。

× × ×

巣立ちというコトバは何時の世にあつても希望にうちふるえる囁きを感じさせるものだ。十年前、私も北九州の某中学を卒業した。それはB29の本土空襲もようやく熾烈を極め日本全体がのたうちまわり断末魔のあえぎを続けらいる最中ではあつたが、そんな灰色のガスの中にあつて一輪の白バラのようにボクの気持は凛としていたことを覚えている。やがて巣立ちゆくあなた達よ。どうかその凛とした気持の一掬でもよい。T君達のような善意の人々がまともに生き得る、まともな世界を創造するために注いでくれ。（筆者は本校教官）

机に底を

皆様の投稿歓迎します。匿名も可、原稿は返却致しません。

机がきずだらけで困つていたところ、昨年の八月に机の修理をして頂いて、筆記をするのに非常に便利になつて感謝しているのであるが、また最近机について不便を感じだした。というのは気をつけてみると机に底のないのが大分あるようである。入れる物がないので不便を感じないという者は別として底があれば気軽るに物を入れることができるし、きわめて都合がよい。弁当の置き場所のないため隣の人の机の中に入れてもらつている者もあるが、たまたま机一ぱいになつて机を少しでも動かるとこぼれ出す始末である。以上のように机に底を入れてもらいたいと痛切に感じているのは諸君の中にもいるだろう。早く適当な処置をして頂きたい。（一年七組A生）

校内の美化に努めよう

冬休みに北校舎の二年側の壁が塗りかえられて見違えたように真白になり何となく清々しい気持です。

だが、一旦下の方をみると、ところどころにごみくずなど掃除の不徹底が目立つようです。冬になると皆掃除を怠りがちで早く済ませたいと思うので行き届がない点ができるのでしようが、最近一年側の廊下を通つて感じたことは廊下が大変光つて特に三組、四組の辺などきれいに掃除をした後がうかがわれました。

掃除ぐらいと思つて、勉強するのが学校じやないかという考えで放つておくのは真に勉強するという気持が根についていない証拠ではないでしようか。

もう一つ、これに関連して備品の破損、持出しが多いということです。よく日本人ほど公共物を大事にしないものはない人種だといわれていますが、学校においてもこの類だと思います。面白半分に板をたたきわつたり、ホウキをむしつたり、黒板消しの中味を出したりすることは、いちいちいうだけ恥かしいぐらいバカげたことです。

また北校舎は老朽がはなはだしいのですが、私たちは苦情を持ち出す前に、被害を最小限度に食い止めることを先ず考えて校内の美化を図つて行こうではありませんか。（二年女子）

山岳部大山登頂

装備不充分で悩む

われわれは若高生四名（五人の所一人病気の為四名）若松山岳会二名でメンバーを構成し、一行は正月二日夜、平均一人六貫以上の荷物をかつぎ元気よく出発、三日大山も暖冬の為　例年降雪の所本年は降雨。われわれは夏山キヤンプ地である南光河原に設営し、先ず初すべりという所。翌四日、暖冬のせいか、夏山用テントに夏山用シラフで過した一夜も、そう寒いとは感じなかつた。三日、四日ぐらいまでは、雨のため雪質悪くスキーも満足に出来なかつた。翌五日、今日はいよいよ頂上攻撃の日である。東の空は良く晴れていた。われわれ一行は大いにはりきつた、しかし、その喜びもつかのま、テントを九時出発、元谷まで来ると空は暗くなり、風雨が激しくなつたので、やむを得ず登頂を断念一行は、くされてテントへ帰える。山には特に冬山には無理は禁物である。夜から気温が下り、雨が雪に変り、テントの中も段々冷えて来た。皆降雪を見て胸を踊らす。翌六日、雪の為テントは二十センチ余り埋つていた。今日こそは是非頂上アタツクをと皆はりきる。九時半テント発元谷には十時過ぎに着いた。今日最初の登山の為雪で道は消え、トツプはラツセルに苦しむ、八合目附近までは雪がやわらかく、一歩ごとに片足全部埋る始末。八合目から上は北風の風当りが強く絶えず吹雪、雪は全部凍りついている。アイゼンの必要性を強く感じる。夏山コースで午後一時半ごろ頂上へ着いた。一面の銀世界、大山連山の雄大な光景に一行目を輝かす、冬山の魅力たつぷり。天候及び時間的にも従走可能であつたが、アイゼンの持合せない為そのまま下山、下山の後、元谷でスキーの練習を行う。雪質良好の為良くすべる。七日、降雪のうち午後帰路若松へ向う。以上で山岳部の最大行事でてる冬山登山も若松山岳会の絶大なる協力のもとに無事終了したわけだが全体的に考えて、何といつても装備不充分、冬山においては絶対危険である。また冬山用ウインターテントの必要性も痛切に感じられた（K）

みぞれと寒風をついて

一年駅傳　A組が優勝す

去る一月三十日午後行なわれた一年級対抗駅伝は若松市一周（畑―小石―脇田―二島―藤ノ木―畑）コースで挙行、優勝候補にあげられていたA組が二位三組と11秒差で優勝した。

この日出発前に降り出した雨ではなはだ心配であつたが予定通りに畑停留所前を二時半スタート四組が一、二区の区間賞をとつてトツプに立ちそのまま逃げ切るかと思われたが三区で、それまで下位だつた七組が手島の力走でぐんぐん進出、雨もようやく止み、手島よりタスキを受けた大庭が一挙に四人を抜き次の走者にトツプのまま中継、五区は平担な下りで選挙も始めからスピードを出し、二島中継所には一組の吉田が一位でまた区間賞を獲得した三組の阿部が三位で入り優勝の行方は混沌となりレースの興味は倍加、続く三組の吉竹（校内マラソン一年一位）が最長距離のこの区間で三人を抜きトツプに立つたが七区でそれまで良く三組に食下つてきた一ノAが西本選手の快走で三組との差をぐんとつめ、アンカー清水に中継清水はあせらず三組にくつついて走り遂にゴール前二百米の地点で三組を抜き後はぐんぐん離して三時四十八分五十八秒南校庭ゴールにとび込んだ。なお団体順位及び区間記録は次の通り。

【団体順位】①一ノA（1時間18分58秒）②一ノ三（1時間19分9秒）③一ノ四（1時間19分14秒）④一ノ七（1時間19分46秒）⑤一ノ一（1時間21分18秒）⑥一ノ二⑦一ノ五⑧一ノ六⑨一ノ四（B）⑩一ノB⑪一ノ七（B）⑫一ノ五（B）

【区間記録】一区田村（四組）14分14秒▼二区山本（四組）7分▼三区手島（七組）6分4秒▼四区大庭健（七組）6分20秒▼五区阿部（三組）9分13秒▼六区吉竹（三組）12分45秒▼七区西本（A組）10分3秒▼八区清水（A組）9分20秒

この駅伝を省りみて反省をしたいのは記録が正確でないと疑われるのがあつたということである一例をいえば四区の6分20秒という記録であるが決して大庭君をとかくいうのではないが四区は全行程二キロである。千五百米、一年の最高が5分10秒余であつたと聞くがこの記録で2キロを走つたとしても7分になる。しかも実際のコースは上り下り一番の難関である。折角の良い行事を、こんなことでつまらないものにしたくない。今後の参考に附け加える。（T）

組対抗 バスケットボール

去る一月十五日から毎放課後催された校内クラス対抗バスケット・ボール大会は二、三年の部と一年の部に分かれて北校体育館及び南コートで行われた。二、三年の部ではベテラン揃いの二ノ三がこれも勝ち進んで来た三ノ七を破り優勝戦をいどんで来た南2を25―17で大きくリードして優勝した。一年の部は圧倒的に強い一ノBが好調に勝ち進み優勝戦でも一ノ三を35―15でこれもまた大きく引きはなし優勝した。

図書室から

図書室での閲覧態度や、帯出方法などの規定について、今更云々するまでもなく、各自知つていることと思うが念のため二、三この頁を借りて注意しておきます。

最近ストーブをたいているせいか雑談が多くなり勝ちなので、他の人のことを考え室内での各自の行動や態度に気をつけること。

また返却日に返却できない人は必ず一度届け出て日延べをするように。

次に無断で本を借出している方が二、三あります。

この方たちも思い切つてこの際返却するように。良い本もたくさん入りましたので勉学のため、趣味の読書欲を満たすため、図書室を大いに利用して下さい（図書）

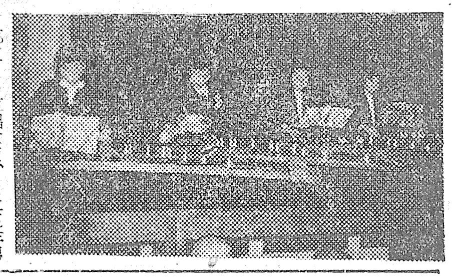
魅了した二時間

奥田良三独唱会開かる

去る一月二十六日午後一時半より本校南講堂においてテノール歌手奥田良三、ピアノ高木幸三の両氏をむかえ盛大に独唱会が開かれた。曲目は『金髪のジエニー』『魔王』日本調のものとして『平城山』『まちぼうけ』歌劇『椿姫』より『乾杯の歌』などの広範囲におよび若高の音楽ファンを喜ばせた氏はイタリーの国立ローマ・サンタチエチリア音楽学校声学本科を卒業されドイツ、フランス、ウイーンなどの音楽の都に留学、その豊かな声量と歌いぶりは一九二七年ローマ国際文化協会、一九二八年イタリー国立ローマ・フイルハモニー音楽院、一九三二年ウイーンの国際音楽コンクールにおいて、それぞれ輝かしい栄冠を与えられ現在は国立横浜大学音楽科主任教授のポストで純正な音楽文化の高揚普及に努力されている。生徒のアンコールに対し三たび舞台に上られ合計二時間という長さにおよんだ。

校内音楽会開く

去る一月十六日、第一回校内音楽会が南校講堂において午後一時から挙行された。先ず一年女子による『早春』の静かなメロデイーとともに幕上げされ、つづいてチーム・ワークのとれた三年女子の『流浪の民』は途中に折込まれた三部による重唱など、また三年男子有志の合唱とともに印象的であつたけれども初めての試みなので大して期待されたものでなかつた一年のKさんに聞いてみると『校長先生の感想にもあつたが、混声合唱はあつてもよいと思う。これを機会に校内での音楽熱が盛んになることを大いに期待したいと思います』と語つた。



校内音楽会等曲の一コマ

図書館便り

本の紹介

『酔人の妻』

ペスタロツチ著
小原　国芳訳

ルソーの『エミール』と同じくペスタロツチの酔人の妻は教育小説の形で書かれている。これは四部から成る独特の書物で切りつめた家庭の生活にたえ忍んでいる女性の中に極めて取るに足らぬ単純な人間の内にこそ尊い力は潜むものでありその力が暗默の間に発して子供の健全な選徳的教育を行うものである。というペスタロツチの根本信念、母を中心とする家庭の教育が教育の第一道場であるといふ彼の根本主張に貫ぬかれて書かれている。

▽ペスタロツチ全集八巻　小原　国芳編
▽ヘロドトス歴史上、下　青木　巖著
▽支那旅行日記　リヒトホーフエン著
▽世界と西欧　トインビー著　吉田　健一著
▽アメリカの化学者たち　B、ヂヤツフイ著
▽第二阿房列車　内田　百閒著
▽歴　史　堀田　善衛著

他校トピックス

短縮授業？

京都のH高校で『先生の授業時間は？』という調査（？）をある物好きな男が四週間にわたつて行つたら次のような統計が出た。すなわち授業時間五十分のうち、始業までの時間は一先生の平均九分十七秒、終講が三分四十秒前、結局のところ正味三十分三秒の授業ということ。つまり十二分五十七秒のサボリとなる……と結果を出した。その先生に何のうらみがあつたか知らないがよく熱心に調べたものだ。

市電値上げに反対

京都府立の鴨庁高校では昨秋市内市電が値上げになるということを聞いて生徒会で討議し絶対多数でもつて値上げ反対を決議し何人かの実行委員によつて着々と値上げ粉砕を押し進め、校内でも再三ビラを流し署名用紙を各ホームルールにくばり共同闘争を呼びかけた。またビラの用紙やその他の雑費などは学校側から出ていたそうである。（同校新聞より）

編集後記

○……一月は往つて、二月は逃げて、三月は去る……冬が早く去るのはわれわれには結構だが何となくあわただしい落ちつかない今日此頃、おまけにめまぐるしい昨今の気温と天候の激変が拍車をかける。

三年生の卒業を目前に控えわれわれ編集室では日夜奔走、やつと第二十九号が日の目をみた次第。

○……本紙は特に卒業色を主力と致しました。一面には進学、就職に分けた卒業生の動向を、二面には三年間の思い出として放談会をそれぞれ載せました。

○……今年度はあと一号発刊する予定です。どしどし寄稿、投稿して下さい。

なお前号の学生と文化欄の岩尾先生御執筆の鐘古今の文中不解読な点がありましたことはこの紙上を借りて同先生に陳謝致します。と同時に御迷惑をお懸けしたことを深くおわびします。（編集子）

ラジオ・蓄音機・その他
無線関係の部分品の
御用命は……
橘高ラジオ商会
本町二丁目　電二三二〇番

大メトロ映画総天然色
歌劇王カルーソ
二十世紀初頭にオペラの黄金時代を築いた不出世の名歌手カルーソの情熱と悲劇の生涯!!
世紀の声再びここに！
マリオ・ランザの登場!!
当代最高の人気歌手
主演　マリオ・ランザ　アン・ブライス　ドロシイ・カーステン　ヤルミラ・ノヴオトナ
リチヤード・ソープ監督
同時上映
求婚三人娘
主演　北原三枝　水原真知子　淡路恵子
監督　萩山輝男
十七日封切
秀瑛
松竹自慢の青春豪華大作
秀瑛タクシー
中川通り六丁目
電二〇七四・駅前三一四八

10日封切
旭座
この太陽
第一部　暁子の巻
第二部　多美枝の巻
同時上映
愛の嵐に泣きむせぶ甘美哀愁の女性感動篇!!
激情も空しく、大都会の雑踏に咲いて消ゆ三つの恋！
真紅の炎に身を灼かれて転び果つる女心
原作　牧逸馬
監督　小杉勇
若原雅夫　島崎雪子　角梨枝子　村田知英子
同時上映
憧れの星座
高千穂ひづる・西条鮎子・宇佐美淳
星美智子・伊藤久男・鶴田六郎
神楽坂はん子・奈良光枝
メチヤクチヤお笑い横町
三遊亭金馬・円歌・シミキン・有馬是馬

流麗甘美の極致！
恋愛映画史の最高境地をゆく不滅の名画！
黄昏（たそがれ）
シオドア・ドライサア原作
ローレンス・オリイヴイエ
ジエニフアー・ジヨーンズ
製作監督　ウイリアム・ワイラー
十日封切
若松クラブ
八木プロ製作・梅崎春生原作
日の果て
主演　鶴田浩二　岡田英次　島崎雪子
監督　山本薩夫
新東宝映画・恋愛大作
今宵誓いぬ
若原雅夫　高峰三枝子　主演
同時上映